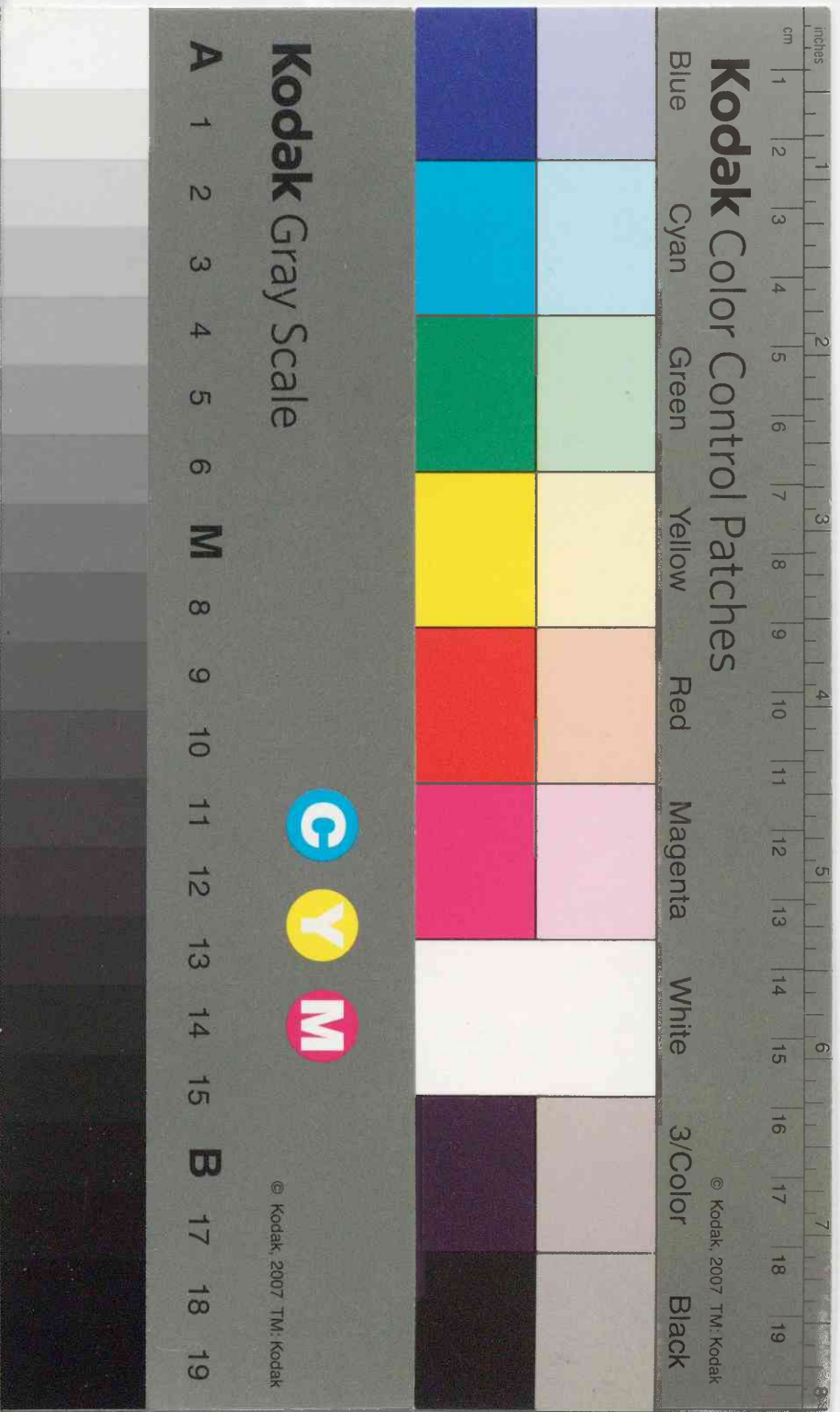




南總里見八大傳第二輯卷之四

東都 曲亭主人編次

第七回

妬忌成逞し墓六頓鈴をゆきふ
孝心を固く信乃曝布は襖を

却後犬塚番作ハ年束の志願稍遂く男は既ふ知生し母も子もいと
まぐよりふ産室撒るるゆゑその見の名を河と名づけんと女房
ふ束は彈へる束へ且く沈吟しふ子育のるれあのハ男児多れば女の子は
女の子より男名つけし中より育まば恙ありと如此き人稀きなり
我夫婦ハ幸多く男児三人奉りてみる場子多く多きふふ
この度由又男児なればト一層ゆきなきて想像のせしむる人
あれ子が十五より人比や女子多く學を恙ありと云ひたりその

拍く冷笑ひ九人の親より一の男児を挙る。表面目とせざるは、今も武士の浪人が女の子を願うらふとや。結城合戦は逃後は脊疵受りよしく、徳川軍といふもの多しと云せど、あてかくやぐ戯れ盡に欺る。ふち白後こと賢ぶとて織とも合鍵嚙とのへる。卻小里人ハ信乃を愛く物成させ送代は抱さる。その母の助けが甚六夫婦へのとて姪と限る。又美く之ども淫婦石女ヨネといふ。鄙俗な漏ぞろ。亀條四十ふあるやで子どもいともうつり。夫婦頻々商量して只管養女を求む。其媒妁たるありて煉馬の家臣豊嶋元忠のか一族なり。其甲といふものの乃女兒今茲僅に二才ふなるあり。その親の思とつゝ四十二の二ツ子のまゝ生涯不通の約束まで永樂錢と貫文を贈り家系宜たりともあら養女は遣ふじといふ。

件の子、まじひく。目鼻ども愛らく。痘瘡もこの春の比いとかろ
 中ふあをてふたれ、定は疵るた玉はまん。とむるとうるで去歳の春正月の
 ち、めよまじひく。手つよとちひ二才見えかゝる乳母ありといふとも、字を
 かゝれとゝあじ。養ひ多と勸む。蓋六亀條へ笑た向く共ふ小膝の進
 ひふえぞや果と目成けし。瑤が塩焼かゝれ世は子の瘡とく永樂銭
 七貫文ハ些少はあふむ。目今和歌がみの語、為るたのるふ素より望む
 吁あり。とくありとくえ。夏と夫婦齊一應一ふ件の男はとろる果て遠く
 生くゆえ。かゝる五六日を経る程ふ。その縛、竟は整一ふ媒妁の男とく。その
 子の親と蓋六と澄丈をさうとふ。披七貫丈りろ共ふ女の子を大塚へ贈りふ
 けは、亀條かゝる抱えとろく。おづその顔、あも熟視又指より蹴あて泣
 をも管つと引伸し。うち久しとくどくとえく。賑然とうち笑ひ三十二相揃ひ

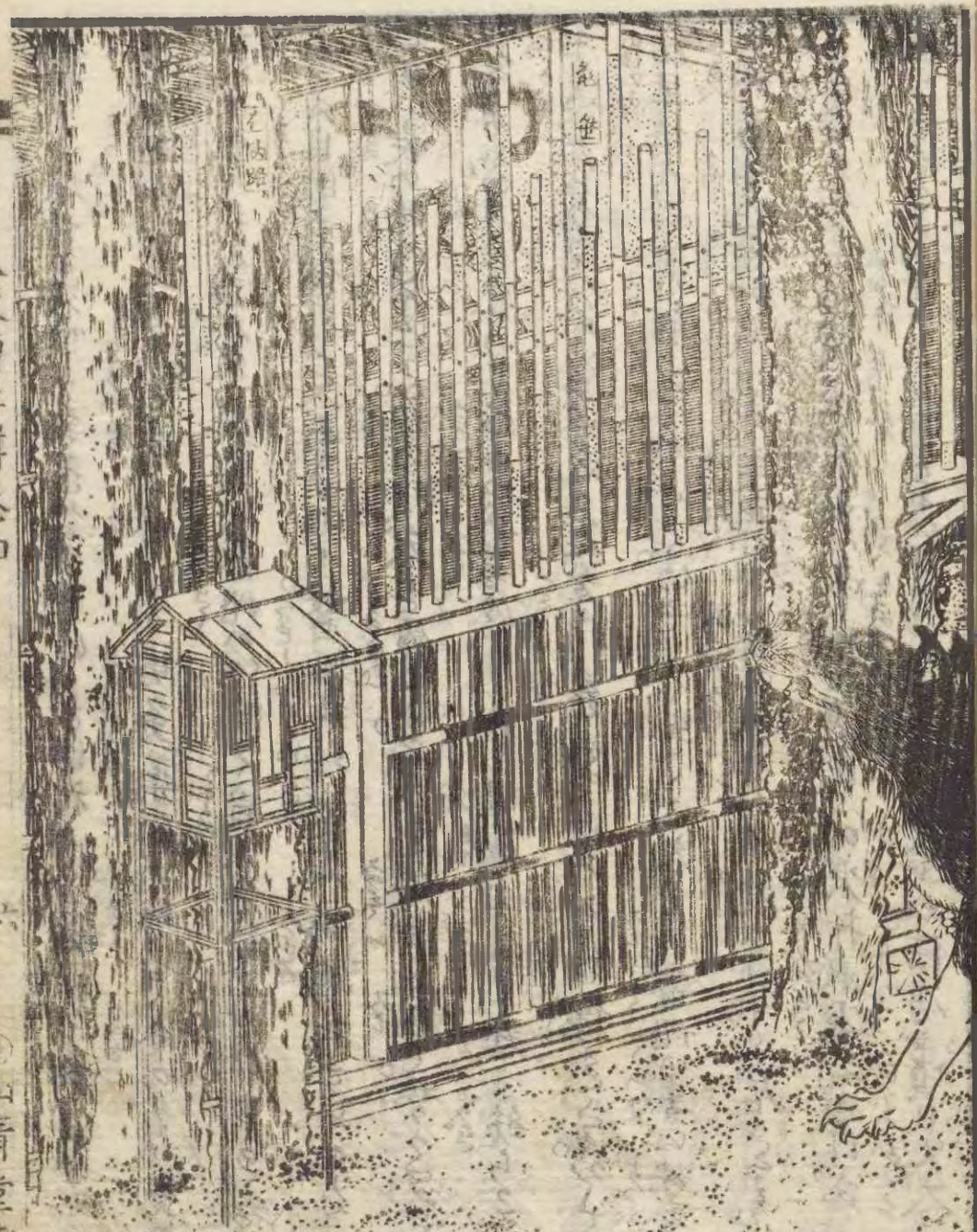
試み小鈴綴奉の法を教ふる素より好む道あり。その技の進む親尚
 あら古を傳ふ。いかにあつておひる。父のかゝても母は東へ子が子といとも
 怜れぬものづから孝心の拳動も顕し。親と人の稱譽するや夫の道
 武の藝より倍くその器は稱へり短命にあふべやと彼成也此と云ふ
 とふかく心安き振舞夫を練め子を禁め習ひ學ぶがうろたふあそびと等
 大さふせよといふされ信乃がむさふの童子ときたらう入る。母乃目
 影を匿びても竹刀とゆふころ日とる馬は又騎る人と云ふ公の
 つれごととも田舎の小荷駄のみく借馬などいふのあふと今信乃が
 まじく比咍親に束が籠の川ある岩屋指の久るさふねく来る狗の子ハ信
 乃ともふ方にくる。今茲ハ既ハ十才なり。この狗脊ハ墨より黒く腹と
 四足ハ雪より白く馬ハ所ニ瞻まふその名を定めて四白とも又与四郎

とも鳴る。後小年。来信乃より。狎く打擲して。怒る。いと。く。ひ。小属。その
 意。ふ。隨ふ。ぞ。信乃。ハ。件。の。与。四郎。は。索。勒。を。け。く。ち。乗。込。不。拘。へ。主。乃
 くら。狐。ゆる。足。撥。を。早。め。て。幾。返。り。く。維。教。祐。ども。その。騎。座。勒。さ。る。の
 神。法。は。稱。ふ。成。る。る。の。思。ろ。も。立。在。く。技。と。姿。の。似。ける。え。は。腹。成。か。えて
 笑。め。あ。む。又。こ。の。童子。が。為。侍。平。人。ま。あ。じ。と。く。賞。嘆。さ。る。と。さ。ふ。く。と
 け。と。現。玉。人。は。あ。う。さ。さ。る。砥。砧。と。真。玉。と。を。さ。る。と。ろ。い。信。乃。が。女。の。子。乃
 打。扮。め。く。武。勇。る。技。の。と。ま。る。ま。ぶ。里。の。兎。角。木。ハ。指。一。唄。く。陰。囊。裏。り。と。そ
 囉。さ。る。か。て。と。信。乃。ハ。物。と。と。思。ろ。ぞ。彼。奴。ハ。土。民。の。子。る。り。遊。び。敵。な。は。あ。め
 ろ。ぬ。ふ。論。ハ。益。と。こ。さ。う。辟。く。ト。い。も。争。つ。ぞ。あ。ふ。あ。と。も。こ。ろ。力。む。り
 よ。の。こ。さ。ら。と。異。や。く。女。の。子。め。た。る。衣。を。め。被。せ。る。い。つ。み。ぞ。や。と。ま。あ
 好。く。思。ふ。の。事。小。紛。さ。く。親。み。の。同。い。を。襦。袢。の。うち。よ。肌。膚。ふ。は。け。

ちひさきの
 人づから
 みるゑぬ
 あらふ大の
 ちひさきの



犬塚老の



二巻二巻

山崎堂藏

被馴し女服をまき、乳色へうきけり。さゆ福ふ今茲秋の丁より、
 束へ心地例なむ、病の床より、鍼灸藥餌の驗る、冬のもく、
 て、日か、よう、な、う、ま、さ、番、他、の、じ、く、目、う、ち、を、く、よ、も、る、夜、を、
 安く、目、睡、む、信、乃、へ、又、あ、れ、く、醫、師、許、往、還、し、湯、液、を、ま、め、費、を、
 四、表、八、表、の、物、を、し、く、母、の、後、然、を、憂、ふ、必、く、を、涙、目、に、盈、て、か、う、く、る、を、
 子、送、ふ、思、ふ、の、い、れ、後、ど、ろ、ろ、を、孝、行、慈、愛、ま、え、で、想、像、さ、る、か、て、
 結、旦、信、乃、ハ、藥、劑、と、ま、お、と、く、い、そ、く、少、く、い、た、後、番、他、の、妻、の、枕、方、あ、て、
 小、病、小、癘、の、塩、加、減、し、く、半、周、を、弱、の、風、火、火、起、さ、せ、居、る、を、
 東、へ、ま、つ、頭、を、擡、常、み、あ、ぬ、く、良、人、の、火、打、水、汲、え、と、け、る、電、
 働、え、を、め、み、と、心、苦、し、限、り、を、加、之、十、の、足、下、信、乃、が、頃、日、大、人、と、

親、お、つ、又、夜、の、目、あ、り、せ、ど、か、く、お、思、う、良、人、と、子、の、ぬ、抱、と、受、
 て、も、幸、小、道、の、別、と、お、ひ、け、り、抑、ら、る、か、此、度、の、病、者、ゆ、え、あ、る、と、ぬ、
 へ、え、と、る、え、素、よ、と、信、乃、ハ、祈、子、ま、く、云、云、の、奇、瑞、あ、り、か、と、奉、り、
 子、る、と、も、年、を、信、乃、ハ、智、ハ、長、く、親、を、く、た、め、の、小、病、を、ハ、湯、子、で、あ、く、
 甘、い、兄、ホ、小、懲、り、短、命、よ、あ、び、や、と、お、ひ、く、ま、の、み、け、る、と、彼、が、定、業、
 脱、と、く、て、生、育、と、い、る、が、母、が、命、を、換、さ、せ、め、と、瀧、の、川、の、岩、屋、殿、
 神、佛、と、年、を、し、く、願、望、竟、は、空、う、で、信、乃、ハ、襪、襪、の、中、より、蛇、を、
 あ、と、風、ひ、く、輕、え、痘、瘡、の、神、送、り、振、子、の、疫、を、病、果、て、も、田、カ、見、あ、る、
 怪、我、あ、り、と、い、七、才、の、巔、踰、さ、せ、く、今、茲、く、く、が、身、を、く、く、子、の、久、後、
 念、願、成、就、か、命、を、惜、む、と、悲、し、く、ハ、只、死、別、と、い、く、ハ、缺、る、垂、乳、女、の、母、ハ、
 る、と、由、を、い、ふ、よ、く、く、光、り、く、何、暗、く、も、生、育、う、く、と、い、く、と、

中々然と暮るるに便々。管荒れをり。一刀を挿し竹杖衝く。
 外面の山を結ぶ。番地は北門の前。客の精助と喚ぶ。
 右の一條の物竿と一箇の魚籠を携へ。左の信子を扶掖き。
 今外面へ出ると番地と面をありて。呵々とうち笑ひ大勢氏其処に
 あり。秋の稼もたゞ。骨休めふと。日曜の暇も。けふ
 未明より出。神谷川は難魚釣暮。瀬の川底。
 子が不動の龍。水垢離執事。外へ冷徹の息を絶へ。形勢を。
 膽洗。周章を引出し。坊へ。
 師們共侶は勸ると半响許。
 させ。縁故。母の大病平愈の祈禱。水垢離を。
 足る。童の傳稀。大孝行法師。

魚の神有洗米を。神の瀧の寺へ遠く。
 危き。賢子へ親を。佛神。
 本復疑ひ。子。
 よく。要。竹螺鳴。和子。
 あよ。魚。食せん。
 裡面。
 勝。足引の山道。
 病。
 孝。
 親。
 守。

今朝醫師并々々々。某劑ありて。還り折家。小家母の物なり。信
 乃か命の長きと。勿体なり。と。母ハ命ハ費ふ神明へ祈りて。人ハ驗
 ぬや。長々病著ハ臥る。と宣ハ。其ハ竊聞。哀。死。と限。と。復。ふ
 儒。と。神。を。泣。声。と。と。喚。婦。と。縁。煩。と。つ。め。り。し。が。親。の。願。望。驗。あ。ふ。
 こと。後。ぎ。も。驗。あり。る。ん。と。い。ふ。この。力。を。贊。め。て。母。の。命。か。か。り。と。思。ひ
 決。め。り。て。あ。り。し。某。劑。を。其。知。又。密。と。措。く。年。末。母。の。信。ト。人。瀧。の。川。に
 走。り。中。に。岩。屋。の。神。み。あ。り。と。う。り。返。り。る。瀧。の。糸。心。強。く。も。力。を。撲。し。下。さ。り。
 死。な。り。え。その。もの。の。あ。ら。む。と。な。る。と。さ。て。あ。ら。む。と。あ。り。る。と。糠。助。男。ハ。坊
 せ。と。と。活。く。還。る。願。望。を。神。ハ。受。さ。せ。あ。ら。む。や。いと。朽。を。く。あ。り。く
 ぬ。と。と。い。ひ。り。て。目。を。あ。り。拭。く。と。東。ハ。と。泣。沈。と。よ。ふ。子。を。り。と。親。ハ
 る。と。と。い。ひ。死。な。る。と。と。い。ふ。身。を。かり。車。あ。り。め。ハ。な。る。と。と。よ。ハ。カ。ナ。ハ

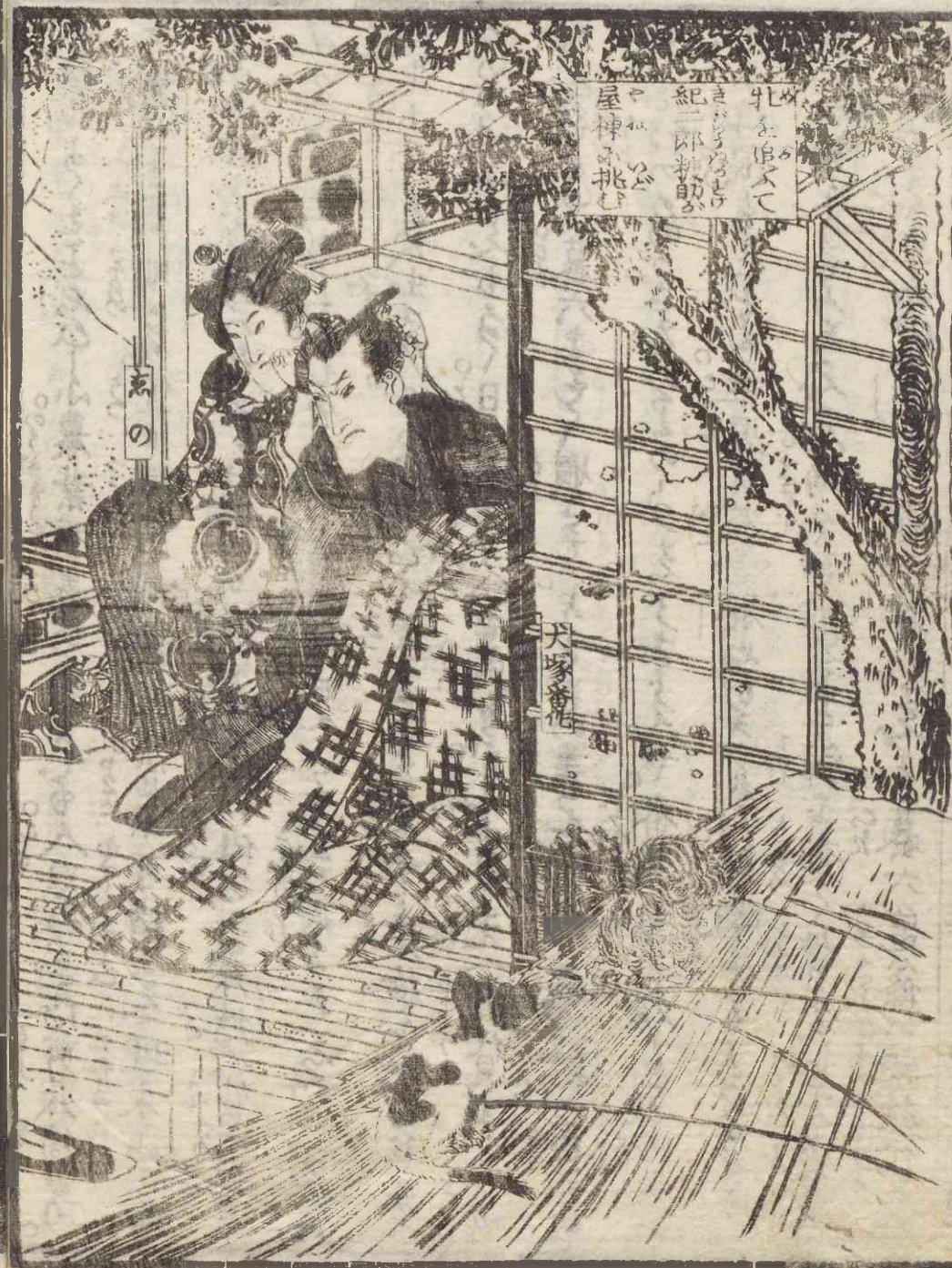
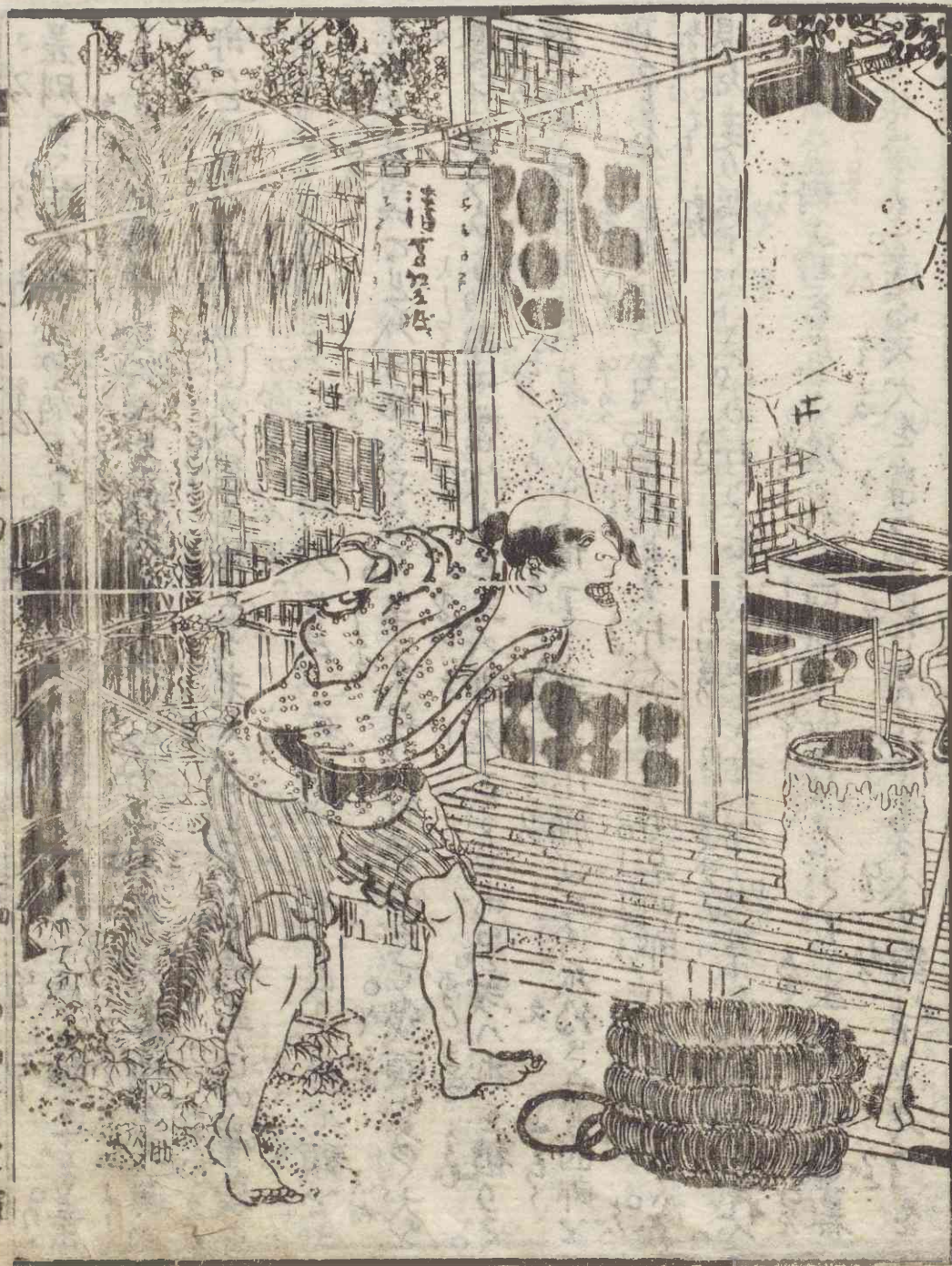
相。あ。り。小。賢。ハ。親。ハ。か。か。り。と。祈。る。誠。を。神。明。の。受。め。て。瀧。壺。ハ。水
 屑。と。と。い。ひ。還。り。け。め。か。く。と。い。ふ。命。運。つ。た。り。と。子。の。う。へ。ん。と。う。く。久。後。さ。ふ
 愚。者。と。い。ふ。涙。の。と。と。い。ふ。と。あ。ら。う。禁。め。に。母。が。あ。り。力。ハ。か。か。り。と。と。
 祈。り。と。い。ひ。る。驗。あ。ら。む。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。願。望。と。い。ふ
 信。乃。よ。あ。ら。む。と。子。あり。と。至。孝。ハ。あ。ら。む。と。せ。ば。慈。母。の。慈。心。を。解。は
 り。と。い。ふ。と。周。公。金。縢。の。書。の。如。く。い。神。ハ。祝。く。成。王。の。病。ハ。か。か。り。と。願。望。の。
 僅。ハ。當。時。の。寓。言。歟。亦。見。至。誠。至。感。の。德。の。と。い。ふ。と。物。の。命。數。と。い。ふ。と。
 よ。と。い。ふ。と。野。ハ。あ。ら。む。と。果。と。と。い。ふ。と。忠。臣。孝。子。が。か。か。り。と。
 孰。ハ。君。父。ハ。病。床。ハ。聖。人。と。い。ふ。と。其。の。か。か。り。と。願。望。の。ハ。誠。の。至。ま。は
 野。ハ。遂。ハ。感。應。あ。ら。む。と。い。ふ。と。命。數。ハ。増。と。か。か。り。と。女。幼。弱。は。て。その。才。智。

第十八回

鯨川原小紀二郎命を預次
村長宅山奥四郎疵を被る

應仁の二年の文明と改元せし文明二年信乃十一歳母をくなく三
年以來父は事てまゝ考ふる。さういふ番地へ行歩不自由なるの
をや鯨夫とありより。年々力衰へ齡五十五は満ちて齒ハ脱頭白く
なる病煩ふ日のヨメもよ。さういふ習子ホを集合ていといと置いとて
も本をよせびさる年々衆人の扶助よりて親子三人誠を凍どあり
けふあの子孫小教にていふが命命食人へをいふとをよといふやが
郷ふ利人送りく恨木が恩義小瓶ふへと豫てよりいふ病の間あつた
折は水旱の准備。荒年の夫食。ぐ農家日用の事をのて述あるてを
一卷う里老老ふ贈りていふ。さういふ大場生ふ述美賣小

武藝をよくとあひ小農耕蚕養のうもて人の老ふは所ふなり。
この書ハ不益の賜あり。写し傳へて秘藏せよ寔ハ可惜士を埋木小ま
とよといふは力のハなるまけり。さういふ墓六ハ件のふ人傳へて姑
のいふとあつた。さういふ書ハ開せんといふと求るとあつた。
里老ハこゝに死出さるゝ其こが写してをよ。写し果物をあつた。
といふふもあつた。日を磨く人を遣せん先より先へ枝貸してあつた。
あつたといふ墓六もあつた。腹をよ。さういふ書ハあつた。一村の長け
るは程ののつた。さういふのつた。さういふや。番地ハさういふと田畠の
中ハ浮浪もあつた。蛭兒はあつた。腰をよ。さういふ。
耕作のつた。さういふ。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
口を惜む。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。



ちやうどとあつて、大を畜せ、婦女の愛する隙に、比より猫を養ふ。
 こゝに貴所の犬の死、一朝又失つる。友犬の戦ふ、つゞき、
 猫と争つて、死なばおそれ、避るゝ。あつて、
 あれを殺さ、大の罪あり。件の大を、
 鎌助男、宿野の、
 犬を、
 困下果、
 人の、
 五、
 の、
 理、

へ、
 絶、
 此、
 仇、
 制度、
 失、
 ちや、
 人、
 殺、
 こゝろ、
 理、

頭低く退けし。糠助へ叱る。番地は。別と小厮とも。小厮出
けり。宿の墓六が。宿所へ。電條續路。小紀二郎。猫が。死骸を抱えて。江
叫び犬を。罵る。番地。狐。多々。時。後。今。の。や。仇。を。牽。り。て。する。飲。と。小
厮。音。つ。と。狐。も。宿。所。而。個。の。使。ハ。糠。助。の。た。り。狐。空。へ。帰。り。と。番
地。は。谷。を。あ。ち。も。る。告。る。電。條。の。怒。ふ。所。を。所。狐。奴。と。も。つ。
る。番。地。が。偏。僻。へ。今。小。を。ぬ。と。る。と。も。勸。解。ら。く。口。を。め。ち。る。が。
朝。王。殘。る。非。法。の。返。答。こ。の。度。へ。堪。え。し。汝。等。再。び。彼。狐。小。赴。き。有。る。狐
い。せ。と。と。の。犬。は。荒。縄。け。く。牽。り。く。ま。よ。あ。る。ゆ。ゆ。と。と。敷。團。へ。墓。六
急。に。推。禁。め。番。地。ハ。足。感。と。と。と。武。藝。は。い。く。侮。ま。し。こ。と。一。鄉。乃
長。く。只。一。頭。の。猫。の。あ。は。こ。の。五。を。惹。き。し。左。右。方。傷。く。る。お。大。理。わ。と
と。い。ふ。と。と。紙。度。と。せ。ま。入。の。証。法。を。り。し。は。は。い。す。小。間。し。も。脚。爪。雪。と。

術。あ。ま。た。人。渠。既。み。つ。る。い。ふ。ま。や。彼。犬。り。宿。所。へ。入。る。打。殺。と。も
恨。る。と。口。を。せ。し。ぞ。幸。ひ。る。謀。り。く。犬。を。敷。地。へ。誘。引。ひ。竹。槍。を。り。刺
笛。を。ん。倉。竹。槍。の。准。備。を。せ。よ。と。ほ。ろ。ろ。小。説。示。せ。ん。電。條。中。う。やく。お。ひ
あ。ん。小。厮。ホ。を。と。ん。か。う。入。る。糠。助。ハ。汝。達。と。共。に。あ。る。と。と。ひ。竹。槍。の
る。ゆ。ゆ。と。と。同。じ。小。厮。ハ。後。方。を。え。え。り。今。お。ぐ。是。奴。は。ゆ。い。一。還。り。狐。が
え。び。ゆ。え。と。い。ふ。小。電。條。眉。うち。撃。め。彼。糠。助。ハ。番。地。が。背。門。の。こ。ろ。こ。ふ
住。居。と。る。ま。固。より。親。れ。の。と。と。せ。く。日。が。良。人。の。謀。彼。が。口。より。洩。り。や
せん。抜。り。小。け。り。と。舌。うち。鳴。く。後。悔。と。ま。墓。六。ハ。お。つ。る。小。厮。を。拍。鳴。呼
恨。り。恨。ぬ。謀。ハ。密。る。る。狐。より。と。と。と。い。ふ。の。狐。コ。ろ。れ。奴。は。ゆ。い。と。と。遠。く。と
ゆ。い。追。笛。は。童。ハ。足。い。と。早。死。の。え。額。義。由。を。死。と。い。を。せ。せ。る。外。面。へ
裳。狐。寒。く。走。去。り。余。る。ふ。こ。の。額。義。ハ。年。小。他。げ。る。才。長。て。その。才。と。あ。る。

さぞ志氣あるものなれば月ごろ主の御姫を傷めしむあやう陽あはれ意は
 慍うとて昨日も料の計較をいと嗚呼ありとむめ思はざるふあはれ思ふに
 まあふ遠くまゐり出が遠くはゆぐ且く久しきまある途めく追はさ
 ゆめば彼宿所まぐいあれて見ふ獺助ゆへ宿へも還るを彼人へ去年の秋
 の貢の債あましう使上。いつて村長を敵めく。自滅を招れしを捨ち
 まふとも口利をいゆ。とむつれゆへ先くまふへ索ゆめさるは索ぬべうや。
 と真一やふあうらゆめ墓にやうち点院現汝がいふと。渠へ債ある
 めんさふその月を愛せむふ。うがぬるえるめえいつ。よりやいふと。洩
 とも彼犬あは四足ある主の番他あは似るうもあまき要時へはれ駈え
 あくと日を懸るが出あるかんそのとた敷地へ呼びふと。刺殺さ入と易う。一
 竹槍の準備憚るるとそのふ配を傳へさせ與四郎犬がいであるふ。あまより

日ひくく候うけるるにに却かへてて莊しやう客かく糠ぬか助すけハハ墓はか六むくガガ計けい校がうをを番ばん仕し小こををせんととと之これハハ別べつと
 告つげるにに遠とほくく走はしりり出で大だい塚づかガガ宿しゆく所しよへへいいひひたたるる墓はか六むく夫そ婦ふガガいいひひつつとと入いりり
 かかふふ報ほう知ちせせ勢せい々々ハハ仇あだるる中ちゆう言ごんささふふ似にとともも某その村むら長ちやうハハ債ちやくありり彼あ人ひと
 こころろとととと告つげるふふああるるをを織を々々絶ぜつのの親おや類るいととのの長ちやうのの内うち室むろハハああるる為ためのの
 奴やつハハ畜ちく生せうののふふああるるととああるる怒いかでかハハ結むすんんとと好このとと絶ぜつとといいひひががじじかからら不ふ
 彼あ與よ四し郎らうハハ近きん郷きやうへへ遣つりり久ひさ大だいささふふああるるををささるる人ひとのの怒いかでかもも自こ然ぜんとと
 解とるるここのの残ざんハハいいつつふふとと密ひそ法ぽうハハ番ばん外がいのの沈しん吟ぎんにに今いまははななめめぬぬ和わ敷しガガ親おや
 切せき飲ちんびびああるるふふああるるととしし怒いかでかるる墓はか六むく園えん宅たくのの智ち囊のうをを拂はらてて縁えん々々とと
 ととととこれこれ露ろををささるるももささるるををむむせせれれどどせんせんささべべハハ又またいいつつららととああるる一ひと只ただ恨うらみみ
 ららくくハハ足あ足そく蹙しやくるる近きん来らいハハああるる病びやうハハ理りありりといいふふとともも争あひひ瓜うり好このままどど
 且また畜ちく生せうハハ智ちありりとと智ちありり安あん危きををささるるささるるめめああれれババ欺あざむききとと彼あ人ひとハハああるる

打殺さるるべしと羞る。和殿より一針ひく犬を遠離るる。とややく小
 犬。おやまけおやまけ。信乃の縁由を告げし。四郎は物敷食ふ。その
 夜、龍の川へ牽りておれ。彼れは寺へ戻つる。犬は糠助より先よかるとて
 おや番代門より入る。途の近れ故より。河へ渡さるる。とて次の
 日も東南のうへ牽出。宮戸川へ入る。牛嶋へ乗る。其れは
 どのでかくとある。かくの如くする。三度五六日を費せども。安とてその切
 り。四郎へ主を慕ふ。おれは禰の及ぶ。犬は果て。殺さるる。父の
 怒り甚し。いづるのめやい。とある。憂るもの。は移る。四
 郎も殺さる。おや伯母夫婦の恨も散る。を異ふ。ある。謀る。とてや
 とある。く。肺肝を推た。僅一の計を生。入る。告ぐ。とある。成る。

糠助男の相續を。とある。外より。件の。とある。犬。おれは。

草野は。倒み耕。とある。折。とある。彼。とある。云。云。

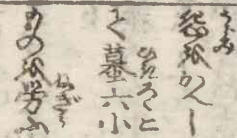
やと。意中の。機密を。説示。所詮。彼。とある。四郎。を。伯母。夫の。宅。地。内。へ。牽
 りて。おれ。犬。は。對。し。罵。り。い。う。ん。この。畜。生。よ。と。る。く。長。が。愛。さ。る。猫。を。殺。し。て
 親。族。怨。を。重。る。の。禍。を。惹。出。せ。し。よ。り。て。を。ぐ。棄。て。と。ある。け。り。と。ある。お
 り。と。ある。お。れ。地。は。入。る。犬。は。今。ハ。と。せ。ん。と。ある。は。は。は。と。ある。殺。し。て
 伯母。夫婦。の。怨。を。解。ん。と。ある。の。と。ある。是。れ。と。ある。と。罵。り。と。ある。杖。を。お。け。て
 犬。を。打。バ。犬。は。必。逃。走。し。人。逃。る。犬。追。ふ。と。ある。打。走。し。趾。を。慕。り。て。宿。所。へ。入。る。
 且。犬。を。殺。せ。置。け。と。ある。伯母。夫婦。の。声。を。お。れ。の。好。景。へ。入。る。と。ある。お。れ。の。人
 番。代。の。子。小。犬。を。打。し。猫。を。殺。せ。る。罪。を。謝。せ。し。と。ある。解。せ。ば。怨。も。散。る。
 犬。を。殺。し。の。念。を。絶。え。ん。と。ある。四郎。は。必。死。を。救。つ。と。ある。お。れ。父。は。恥。づ。く。と。ある。親

族多成重なるの歎えなり。このる何と云ひあふと問はれ、糠助一隊に及ぶと、
 賢哉と。和子ハ僅ふト一才その智ハむの楠公は也。且その練る所親
 の為伯母をその孝ん義へ。其共侶ハゆづるふ。とくといをせむ。
 信乃ハ既ハ翼をぬく。さうもさく、勇とあり、速く走り、之りて、
 門のさる奥四郎ハ後引きて糠助の共、墓六が門はゆるゆると、
 いく声をおとえ。云云と罵責く。棒を揚杖を揉く。奥四郎を破と打
 らせ、大ハさる瓜ゆるど、生手あり、あふ、糠助さへ、さる瓜打、大さ
 ら、後ハ数馬ハ瞬と途ハ失ハ、舊の路ハ逃さる。墓六が宅地を
 遠く、背門のさるぞ走りける。信乃糠助ハさる瓜打、ある便は、さるこ
 あふ、さるさ逃よ。といぬなるふ、途ハ失、さる左右ふ、さる杖ハ
 揚、追蒐ハ大ハよく狼狽さる。走り、腕人、さる、たこの丸を

飄のい、口、方、く、前、面、は、路、る、已、と、瓜、ゆるど、墓六が背門より、裡面へ
 ま、さる、勢、小、果、し、つ、左、辺、さる、さ、舍、力、を、引、く、危、込、さる、さる、や、騷、ぐ
 幕六が小厮、ホハ、彫、て、後、門、を、背、門、も、破、と、所、是、首、よ、彼、首、よ、散、動
 声、響、け、た、さる、さる、さる、糠助ハ、瞬、と、信、乃、が、杖、を、引、く、免、毛、
 吹、流、を、求、さる、さる、虚、と、さる、さる、忽、地、不、虞、の、危、殃、あ、さる、と、
 さる、とい、い、あ、さる、さる、舍、さる、棒、を、隠、え、と、さる、懷、挿、入、さる、さる、走り、避、人、と
 さる、さる、小、厮、は、つ、又、脚、は、の、さる、と、罪、九、さる、推、痛、め、さる、倒、れ、吐
 嗟、と、叫、く、棒、を、繰、上、捨、ち、さる、さる、小、才、を、起、せ、さる、膝、破、れ、血、流、さる、さる、
 ら、小、息、あ、さる、面、を、皺、め、膝、を、掛、足、引、く、逃、さる、さる、さる、さる、さる、信、乃、ハ、退、さる、
 する、さる、所、外、を、さる、さる、と、百、遍、悔、さる、遍、悔、さる、又、せん、さる、さる、さる、
 隙、あ、さる、奥、四、郎、ハ、救、ひ、と、さる、と、さる、さる、彼、此、小、さる、遠、さる、大、の



庄官乙亥



卷之四

